

2023年度

環境活動レポート

エコアクション21

期 間 2023年8月1日～2024年7月31日

発行日 2024年8月10日

株式会社 カネス杉澤事業所

【1】. 事業所名

事業所名

株式会社 カネス杉澤事業所

代表者氏名

代表取締役 杉澤 真吾

【2】. 所在地

本社: 〒041－0824 北海道函館市西桔梗町863番地1

産業廃棄物中間処理場: 〒041－0834 北海道函館市東山町138－14

【3】. 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者氏名

杉澤 真吾

事務局担当者氏名

金澤 幸一

連絡先

0138－86－5573

【4】. 事業内容の概要

産業廃棄物の中間処理

リサイクル骨材等の販売

土木工事・舗装工事・建築工事の設計施工管理

従業員数: 全体で38人

産業廃棄物収集運搬

【5】. 事業の規模(資本金、主要製品の生産量、従業員数、事業所の延べ床面積等)

資本金 50百万円

設立年月日 昭和54年8月29日

活動規模	3年	4年	5年
再生骨材生産量	18,842t	13,235t	11,670t
受入実績	18,245t	14,837t	17,758t
収集運搬実績	4,300t	2,751t	4,398t
売上高	1,498百万円	1,595百万円	1,581百万円
従業員	45人	42人	38人
工事件数	147件	134件	145件
本社事務所床面積	389㎡	389㎡	389㎡
処分場務所床面積	10,000㎡	10,000㎡	10,000㎡

【6】. 許可の内容

処分業：中間処理 函館市：05220008120号
許可年月日：平成28年11月11日 (令和8年11月10日まで有効)
廃棄物の種類：コンガラ、アスガラ
産業廃棄物収集運搬業 北海道：00100008120号
許可年月日：平成30年9月6日 (令和10年9月5日まで有効)
廃棄物の種類：コンガラ、アスガラ、汚泥、廃油、廃プラ、紙くず、木くず、繊維くず、
ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず

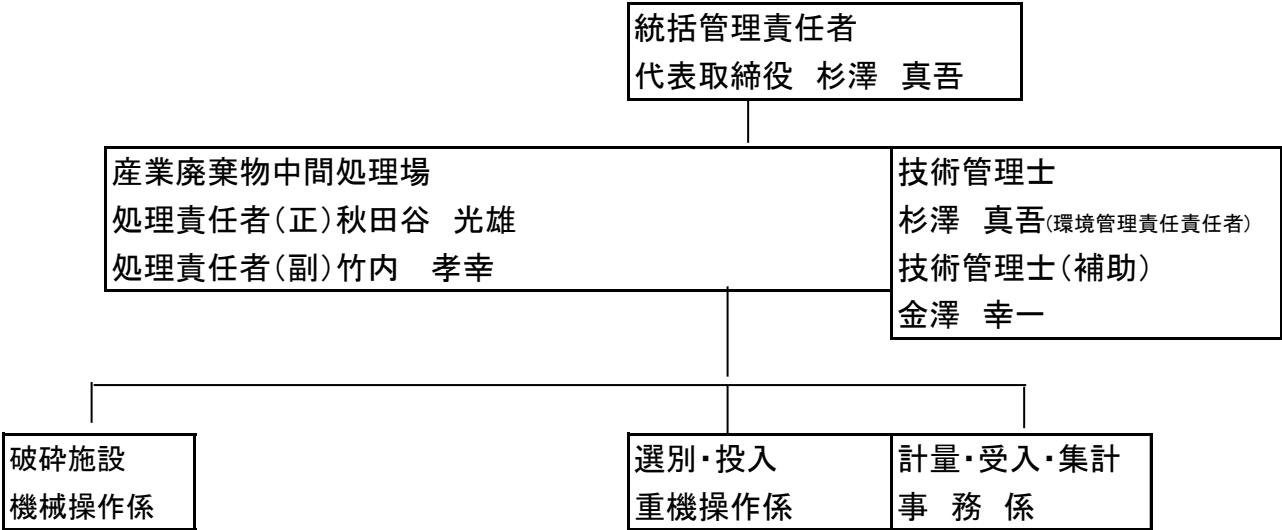
【7】. 施設等の状況

中間処理施設：破砕(がれき類)
処理能力：800t／日(8時間)
収集運搬車両の種類及び台数：11tダンプ8台、バキューム車(4.5t、7.13t)各1台

【8】. 処理工程

受入→破砕→再生骨材
→鉄(有価物売却)

【9】. 組織図



【10】. 環境方針

《環境方針》

1. 再生骨材の生産拡大により、アスファルト塊、コンクリート塊等の廃棄物の削減に寄与する。
2. 省エネルギー及び二酸化炭素の削減(燃料、電力)により環境への負荷を低減する。
3. 環境関連法規制を遵守し、国や行政の環境対策に協力する。
4. 環境方針は、関連する従業員に周知する。
5. 環境経営の継続的改善を図る。

2024年8月10日

株式会社 カネス杉澤事業所 代表取締役 杉澤 真吾

【11】. 環境目標

年度 項目	2022年度	2023年度	実績(2023年8月～ 2024年7月)	2024年度	2025年度
電力の削減	59330kwh	2022年度比1%減 数値目標:58737	2022年度比0.9%減 実績数値:58806	2023年度比1%減数 値目標:58220	2024年度比1%減
評 価	前半は原材料増により稼働率が6.2%増加したが、後半は需要減少により稼働率が8.3%減少したため、当初の目標をほぼ達成できた。				
燃料の削減－ 中間処理場 (軽油)	35444L	2022年度比1%減数 値目標:35090	2022年度比2.8%減 実績数値:34454	2023年度比1%減数 値目標:34109	2024年度比1%減
評 価	前半は稼働率が21.7%増加したが、後半は稼働率が22.9%減少したため、当初の目標以上を達成できた。				
燃料の削減－ 建設現場 (軽油)	19656L	2022年度比1%減数 値目標:19460	2022年度比9.8%増 実績数値:21585	2023年度比1%減数 値目標:21369	2024年度比1%減
評 価	遠隔地工事、冬季工事増のため、9.8%の増となった。				
再生骨材の 生産量拡大	13235t	2022年度比1%増数 値目標:13367	2022年度比11.8%減 実績数値:11670	2023年度比1%増値 目標:11787	2024年度比1%増
評 価	解体工事減少のため生産量が減少となった。				
二酸化炭素排 出量削減	141538 kg-co2	2022年度比1%減数 値目標:140000	2022年度比0.8%増 実績数値:142610	2023年度比1%減数 値目標:141180	2024年度比1%減
評 価	遠隔地の施工場所が増えたため増となった。				

- * 水の使用量については、本社では飲用で使用量が少量の為、また、中間処理場では地下水を使用して防塵のための散水に使用しており、使用量が把握できないため、目標設定はしていない。
- * 廃棄物については、本社の一般廃棄物は数量管理を行っていない。工事現場では産業廃棄物はコンガラ、アスガラ等の廃棄物が殆んどで、自社運搬及び自社処分して100%リサイクルしている。また、排出量が設計で決めら、再生資源利用促進計画で管理しているため目標設定はしていない。化学物質についても取り扱いがないため、目標設定していない。

* 総二酸化炭素排出量: 142610kg-CO2 北海道電力排出係数:0.535kg-CO2/KWh

【12】. 主要な環境活動計画の内容

活動:◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

(1)電力、燃料(ガソリン・軽油)、再生骨材	達成状況	取組結果とその評価、 次年度の取組内容
① 電力使用量の削減		再生骨材の生産が大幅減少した割合に、電力の消費が微小原因を再確認。他は計画通り実施出来た。次年度も継続
・使用していない室、トイレの照明は消灯する。	◎	
・昼休みは、業務上支障が無い限り室内の照明を消灯する。	◎	
・プラントでのアイドリング運転を極力控える。	◎	
② 燃料の使用量の削減		中間処理施設の重機稼働減少によるものと思われるが、生産量の割合に比較すればすくない。他は計画通り実施出来た。次年度も継続 又、建設現場については、施工場所、工事内容により変動するため管理が難しい。
・重機の使用時はエコドライブを心がける。		
a) 運転時は、空ふかしはしない。	◎	
b) 5分以上の停車(停止)時は、エンジンを切る。	◎	
c) 暖気運転は、5分(冬期10分)以内とする。	◎	
d) 始業前点検及び定期点検と整備を確実に行う。	◎	

③ 再生骨材の生産量拡大		
・コンクリート塊の受入拡大	×	前期より11.8%と大幅な減となった。 次年度は受入れ数量設定見直し。 (アスファルト塊の受入れ制限)
・生産計画の適正化	△	
④水の使用量削減について		
・洗車を回数を最小限にする。	◎	問題なく遵守できた。
・使用しない場合は蛇口を止める等無駄遣いをしない。	◎	
⑤廃棄物の削減について		
・一般廃棄物は分別、印刷時はコピー紙の裏紙利用をする。	◎	問題なく遵守できた。
・建設現場でのリサイクルできるものは徹底する。	◎	

【13】. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

適用される法規制	要求事項	順守評価
廃棄物処理法	産業廃棄物保管基準、産業廃棄物管理票、産業廃棄物処理業、産業廃棄物処理施設、産業廃棄物の処分の基準	遵守
廃棄物処理法	水銀廃棄物の発生(蛍光管)	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行細則(北海道)	産業廃棄物の処理実績等の報告	遵守
フロン排出抑制法	第一種特定製品(事務所、重機のエアコン)	遵守
大気汚染防止法 (第18条の15第6項)	石綿含有建材の調査(事前調査)	遵守

順守評価の結果過去3年間に於いて環境関連法規制に関する違反はありません。
又、環境当局よりの違反等の指摘、利害関係者からの訴訟も過去3年間ありません。

【14】. 代表者による全体評価と見直しの結果

今期も前年同様電力、燃料(軽油)で当初の目標は達成出来ましたが、ガソリンについては担当者の施工地域が遠方だったり、パトロール回数が増えたため、増加した。
今期も効率的な施工体制を作成し、目標達成に近づける。
又、再生骨材については、原材料の受入れは多少増えたものの出荷については減少。
需要の少ないアスファルト塊の受入れを制限し、設定を見直す。
次期も流動的ではありますが、出来る限り現状維持を目指して努力したいと思います。
方針、目標、計画は次年度も継続。